

令和5年度当別・新篠津発明工夫展に出展

<夏休み作品展結果>

3年生

- 【金賞】北潟 彩恋さん
- 【銀賞】本田 菜々実さん
- 【銅賞】高橋 成那さん
- 盛田 花果さん

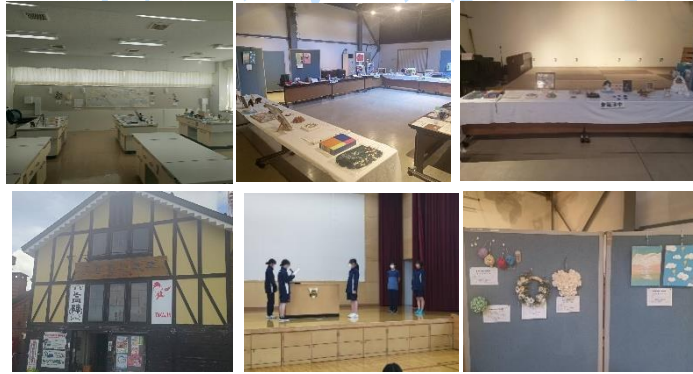
2年生

- 【金賞】東 大輔さん
- 【銀賞】東出 諭知さん
- 【銅賞】阿部 佑亮さん
- 【銅賞】五十嵐 朱莉さん
- 【銅賞】三品 莉子さん

1年生

- 【金賞】城戸 遙夏さん
- 【銀賞】赤坂 優月さん
- 【銅賞】君野 美羽さん

※発明工夫展にはその他にも
 (1年) 千葉生基さん/内藤環愛さん/中島千晴さん
 (2年) 市村蓮斗さん/北川瑠々さん/佐藤輝雲さん
 (3年) 横山世知さん/白木柚羽さん/馬淵彩さん が出展



八月三十一日(木)～九月一日(金)に石狩当別駅前ふれあい倉庫カルチャーホールにて「令和5年度当別・新篠津 発明工夫展」が開催されました。会場には当別地区の小中学校や新小生の作品とともに、新中生の夏休み作品展での優秀作品が展示されました。

会場を訪れて作品を見ていた方に感想を聞くと「どの学校の生徒の作品も工夫された力作が多くて感心した」との言葉をもらいました(出展された生徒の一覧は左の通りです)。

令和5年度 学校だより 第十一号

篠津原野に雲晴れて

【前文】先人の熱いこころを受け継いでふるさとに生きる力を育む

【教育目標】

真理を探究する人
 友情を大切にする人
 創造し実践する人
 健康で明朗な人

【教育推進スローガン】
自立・感謝

野球部新人戦優勝

九月二日(土)～三日(日)に江

別市飛鳥山公園野球場で開催された江別市内中学校軟式野球秋季大会(江別市内中体連新人戦野球大会)に野球部が中央中学校・大麻中学校と合同チームで参加をしました。一日目に一回戦では江陽中学校と対戦して十二対〇、準決勝で大麻東中に七対四で勝ちました。二日目の決勝戦では江別第一中学校と江別第三中学校の合同チームと対戦し、終盤まで僅差の試合となりましたが、東大輔さんのセンターオーバーのタイムリーヒットもあり、四対〇で勝利して優勝することができました。

近隣の市町村での開催の大会ということもあり、スタンドにはたくさんの方の応援がありました。ご声援をありがとうございました。



北海道シエイクアウト

九月一日(金) 防災の日に行われ

た「北海道シエイクアウト二〇二三」に参加しました。この防災訓練は地震発生時に自分自身の身を守る方法を身につけることを目的に毎年行われています。ドロップ(低く)カバー(頭を守り)ホールドオン(動かない)を意識して全校生徒が真剣に取り組みました。



発生時の安全確保行動1-2-3 (Drop, Cover, and Hold On)

卓球部全道カデット出場

九月二日(土)～三日(日)にウ

インドヒルクしろスパーアリーナで開催された北海道卓球選手権(カデットの部)に卓球部が参加しました。全道トップレベルの選手と精一杯試合を行ったことで貴重な経験と

「教育実習を振り返って」

教育実習生 板垣 航平

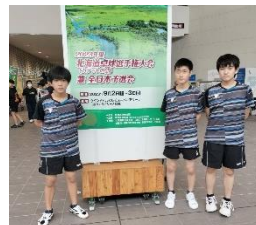
3週間の教育実習は期間としては短いです
が、1日1日はとても濃く、生徒の皆さんや
私のことを指導していただいた先生方からた
くさんのことを学ぶことができました。最初
は私も生徒の皆さんも緊張していてコミュニ
ケーションが取れるのか、授業はできるのか
と不安がありました。真面目に何事にも取り
組んでくれる生徒の皆さんの姿を見て教育
実習を頑張ることができました。

生徒の皆さんは今後、楽しいこと、苦しい
こと、様々な経験をしていくと思います。い
ろいろなことを挑戦することで将来が見えて
くるはず。自らチャンスをつかめる人間に
なってください。また、皆さんとどこかで
会えることを祈っています。短い間ですが、
ありがとうございました。



九月一日（金）の「村の日」に自
治センターで「村民の集い」が行わ

村民の集い参加



【男子シングルス】
一年 塚本 虎白さん 一回戦惜敗
一年 三上 皓大さん 三回戦惜敗
二年 小岩 瑞輝さん 四回戦惜敗

なりました。



れました。新中生は太鼓保存会所属
生徒による田園太鼓の発表、三年白
木柚羽さんの意見発表、音楽部生徒
による演奏について参加をしました。
音楽部は青空祭りで披露した曲目を
三曲演奏、白木さんはジェンダーフ
リーについて自分が考えたことを発
表しました（下欄参照）。

「誰もが自分らしく過ごすために」

3年 白木 柚羽

最近よく耳にする「ジェンダー」の問題。私の学校でも、昨年度からいろいろなものがジェンダーレスになってきています。昨年度は名簿と整列が男女混合に、今年度は制服がセーラー服と学ランから、リボンとネクタイ、スカートとスラックスを自由に選択できるブレザーに変わりました。性の多様性を認める動きが学校社会にも反映されていると感じました。

その時、私はある体験を思い出しました。幼い頃、髪を結んでパーカーのフードをかぶっていたために、初めて知り合った人に「男の子かと思った」と言われたことです。男の子に間違われたことは初めてで、強い衝撃を受けたのと同時に心がズキッと痛むような感覚におちいったのを覚えています。そして、この体験を思い出すたびにその痛みが今でもよみがえります。このとき、ふと思いました。LGBTQなどジェンダーに悩む人たちが見た目や性別で決めつけられたらこんな気持ちになるのではないかと。

この世界には、心の性と体の性が一致している人が多く存在する一方で、心の性と体の性が一致しておらず違和感を抱いていたり、あえて自分の性を決めていなかったり性自認の問題を抱える人、同性に恋愛感情を抱く人がたくさんいます。少しずつ性の多様性が認められるようになって、ジェンダーに悩む人への差別や偏見がまだまだ多くあるのも事実です。体の性だけを見て「男なのに」「女なのに」「男らしくない」「女らしくない」などという言葉が投げられるだけでなく、家庭で暴力を受けたり、精神科医に連れていかれたりする事例もあります。さらには就職や社会保障を受けることも難しくなっているところもあるようです。

これらの話を聞いて私は思うのです。ジェンダーに悩む人はどうして差別されなければならないのでしょうか。私たち人間は同じところがたくさんあります。趣味やスポーツに熱中したり、夢に向かって挑戦したり、誰かを愛したりします。それは本来、性は関係ありません。しかし、違いばかりに目を向ける人が多くいるのが現状です。周りの目が気になり、堂々と生きることには一歩勇気がいると考えている人がたくさんいます。その人たちが自分をなかなか理解してもらえずに過ごしていたとしたら、私が体験したようなことが日常的に起こり、生きづらいと感じてしまうのではないのでしょうか。人によって考え方や価値観、社会的環境が違うため、世界中にいる人全員が多様性を認めるということは難しいかもしれません。それでも、たくさんの方がそれぞれの多様性を受け入れようとする考え方が広まっていたとしたら、誰もが暮らしやすい世界に変わっていくのではないのでしょうか。

その第一歩として、まずジェンダーに悩む方々の思いを知ることが何より大切だと私は思います。人は性が全てではありません。誰かと出会った時、趣味や何かの好みなど共通点が見つかったら、性に関係なく、同じ人間としてわかり合えるはず。性だけでなく、様々なこと
の多様性を認めて、分かり合おうとする心を持つこと、それが誰もが自分らしく生きられる社会にすることにつながると私は信じています。